

※主要論文に○印・corresponding author に*印を付けています。

(IV) 著 書

1) 英文

1. Kumabe T*, Nakasato N, Tominaga T, Higano S, Takahashi S, Yoshimoto T: Surgical management for gliomas around the motor strip: preoperative anatomical and functional imaging. In: Computer-Assisted Neurosurgery, Tamaki N, Ehara K (eds.), Springer-Verlag, Tokyo, 1997, pp 165-174
2. Kumabe T*, Saito R, Kanamori M, Sonoda Y, Higano S, Takahashi S, Tominaga T: Visualization of lateral lenticulostriate arteries using 3-tesla magnetic resonance imaging. In: Neurovascular Imaging. Takahashi S (ed), Chapter 9, Springer-Verlag, London, 2010, pp295-303
3. Kumabe T*, Kanamori M, Saito R, Nagamatsu K, Sonoda Y, Higano S, Takahashi S, Tominaga T: Ischemic complication associated with resection of opercular gliomas. In: Neurovascular Imaging. Takahashi S (ed), Chapter 10, Springer-Verlag, London, 2010, pp305-318

2) 和文

1. 隈部俊宏*、中里信和、佐藤清貴、鈴木匡子、梅澤邦彦、清水宏明：覚醒麻酔を用いた術中脳機能地図作成下での大脳半球神経膠腫摘出術. グリオーマの外科, 柴田尚武編集, メディカ出版, 大阪, 1998, pp216-222
2. 隈部俊宏*、近藤健男、吉本高志、日向野修一、高橋昭喜：弁蓋部から島部に浸潤する神経膠腫摘出術における血管障害. 脳腫瘍の外科手技—スタンダードと新しい展開, 菅野哲夫編集, メディカ出版, 大阪, 2000, pp280-287
3. 隈部俊宏*、昆 博之、吉本高志、日向野修一、高橋昭喜：弁蓋部から島部に存在する神経膠腫摘出術. advanced technology を用いた脳腫瘍の外科, 嘉山孝正編集, メディカ出版, 大阪, 2001, pp91-98
4. 隈部俊宏*、中里信和、吉本高志：側頭葉神経膠腫. 神経膠腫, 脳神経外科 Advanced Practice 5, 高倉公朋編集, 株式会社メディカルビュー, 東京, 2002, pp20-29
5. 隈部俊宏*、中里信和、永松謙一、岩崎真樹、鈴木匡子、吉本高志：中心前回に存在する神経膠腫の解剖学的所見による分類. ポストシーケンス時代における脳腫瘍の研究と治療. 第10回日本脳腫瘍カンファレンス講演集, 編集：田淵和雄・白石哲也, (財)九州大学出版会, 2002, pp.305-310
6. 隈部俊宏*、中里信和、鈴木匡子、佐藤清貴、永松謙一、岩崎真樹、吉本高志：側頭葉神経膠腫摘出術. 脳腫瘍の外科—最新のテクノロジーを用いた正中部および脳幹・間脳腫瘍の手術, 長尾省吾編集, メディカ出版, 大阪, 2002, pp158-165
7. 隈部俊宏*、中里信和、吉本高志：神経膠腫摘出における皮質下電気刺激法. 先端医療シリーズ 18・脳神経外科「脳腫瘍の最新医療」, 第8章 切除率向上のための新技術, 高倉公朋監修, 編集者：嘉山孝正・吉峰俊樹・若林俊彦・久保長生・渡辺英寿・藤巻高光, 先端医療技術研究所, 東京, 2003, pp266-274
8. 隈部俊宏*、中里信和、永松謙一、岩崎真樹、鈴木匡子、吉本高志：中心前回に存在する神経膠腫の解剖学的所見による分類. 顕微鏡下手術のための脳神経外科解剖 XIV-機能温存のための脳神経外科解剖-, 新井一編集, 第16回微小脳神経外科解剖セミナー事務

局, 福岡, 2003, pp109-116

9. 吉本高志、隈部俊宏*：第 13 章 神経疾患 5) 脳腫瘍. コ・メディカルのための臨床医学. 後藤由夫編集, 株式会社医薬ジャーナル社, 大阪, 2003, pp711-716
10. 隈部俊宏*、中里信和、富永悌二：術中マッピング. 脳神経外科・周術期管理の全て・改訂第 2 版 X. 検査・治療, 編集：松谷雅夫・田村 晃, 株式会社メディカルビュー, 東京, 2003, pp589-597
11. 隈部俊宏*、日向野修一、富永悌二：tensor イメージによるファイバーの描出. 先端医療シリーズ 29・脳神経外科「脳腫瘍の最新医療」, 第 5 章 グリオーマ手術の進歩, 菊池晴彦監修, 編集：吉田純・橋本信夫・榊寿右・片山容一・兵頭明夫・宝金清博・平孝臣・伊達勲, 先端医療技術研究所, 東京, 2004, pp100-105
12. 隈部俊宏*、藤村 幹、嘉山孝正、富永悌二：視床悪性神経膠腫に対する摘出術. 脳腫瘍の外科—脳腫瘍外科のコンセプトと治療予後向上の工夫, 吉井興志彦編集, メディカ出版, 大阪, 2004, pp244-249
13. 隈部俊宏*、富永悌二：神経膠腫治療成績の変化. 日本臨床 63 巻 増刊号 9 (通巻第 878 号) 脳腫瘍の診断と治療—最新の研究動向— VI. 脳腫瘍の治療 概論, 株式会社日本臨床社, 大阪, 2005, pp293-297
14. 中里信和*、隈部俊宏、富永悌二：MEG による術前脳機能マッピング. 日本臨床 63 巻 増刊号 9 (通巻第 878 号) 脳腫瘍の診断と治療—最新の研究動向— V. 脳腫瘍の診断 画像診断, 株式会社日本臨床社, 大阪, 2005, pp228-235
15. 刈部 博*、隈部俊宏、富永悌二：神経膠腫術前・術後の機能 MRI と術中マッピングの比較. 日本臨床 63 巻 増刊号 9 (通巻第 878 号) 脳腫瘍の診断と治療—最新の研究動向— V. 脳腫瘍の治療 外科療法, 株式会社日本臨床社, 大阪, 2005, pp395-400
16. 隈部俊宏*：第 2 章 脳腫瘍の診断・治療・看護 II 治療・看護の進め方 B 治療の実際と看護 1 手術療法 1) 治療の実際とリスク. がん看護 実践シリーズ 1 脳腫瘍. 監修：野村和弘・平出朝子, 編集：渋井壮一郎, 株式会社メジカルフレンド社, 東京, 2007, pp129-133
17. 隈部俊宏*、渡辺みか：Ependyoblastoma 上衣芽腫. 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス第 3 版, 編集：日本脳腫瘍病理学会, 株式会社医学書院, 東京, 2009, pp95
18. 隈部俊宏*：臨床・病理 脳腫瘍取り扱い規約 第 3 版. 編集：日本脳神経外科学会・日本病理学会, 金原出版株式会社, 東京, 2010
19. 隈部俊宏*、富永悌二：脳腫瘍—手術療法—. I. 臓器部位別の治療戦略. がん治療最前線—米国癌学会(ASCO)のトピックスを中心に—. 編集：「がん治療レクチャー」編集委員会, 株式会社総合医学社, 東京, 2010, pp1-5
20. 隈部俊宏*、富永悌二：2. 星細胞腫に放射線治療は必要か? II. 腫瘍. EBM 脳神経外科疾患の治療 2011-2012. 編集：宮本亨・新井一・鈴木倫保・渋井壮一郎・中瀬裕之, 株式会社中外医学社, 東京, 2010, pp114-120
21. 隈部俊宏*、横沢路子、富永悌二：高磁場 MRI をもってしても腫瘍の脳幹部浸潤は同定

し難い. 脳神経検査のグノーティ・セアウトン. Part 1 MRI 編. 編集: 小川彰, 株式会社シナジー, 東京, 2010, pp100-106

22. 隈部俊宏*、富永悌二: 神経膠腫治療成績の変化. 新時代の脳腫瘍学—診断・治療の最前線— V. 脳腫瘍の治療. 概論. 日本臨床 68 巻 増刊号 10, 株式会社日本臨床社, 大阪, 2010, pp311-319
23. 隈部俊宏*: 1. 低悪性度グリオーマ. イラストレイテッド脳腫瘍外科学. C-VI 各種脳腫瘍の手術. 1. グリオーマ. 編集: 河本圭司・本郷一博・栗栖 薫, 株式会社医学書院, 東京, 2011, pp114-117
24. 隈部俊宏*、富永悌二: 松果体部腫瘍-Occipital transtentorial approach. ビジュアル脳神経外科 Anatomy & Surgical Approach 4. 脳室・松果体. III. 脳室・松果体の手術/腫瘍. 編集: 片山容一・富永悌二・斉藤延人, 株式会社メジカルビュー社, 東京, 2011, pp100-111
25. 隈部俊宏*、富永悌二: 神経膠腫摘出の基本手技. 大畑建治編集, 脳腫瘍の外科—社会が望む脳腫瘍外科, メディカ出版, 大阪, 2011, pp215-224

(V) 総説、講座

1. 隈部俊宏*、富永悌二、嘉山孝正、斎藤桂一、中里信和、川村 強、大友 智、栗原紀子、日向野修一、高橋昭喜、吉本高志: 運動野近傍の悪性神経膠腫の手術: 術前解剖学的及び機能的画像と術中運動誘発電位モニタリングの有効性. 脳外速報 6:215-219, 1996
2. 白根礼造*、城倉英史、隈部俊宏: 神経内視鏡手術. 第3脳室内腫瘍. Clinical Neuroscience 16:1386-1388, 1998
3. 隈部俊宏*、中里信和、菅野彰剛、井上 敬、吉本高志: 神経膠腫手術への機能マッピング支援. 神経進歩 43:377-384, 1999
4. 隈部俊宏*、中里信和、吉本高志、鈴木匡子、佐藤清貴: 言語を守る脳神経外科手術. 言語野近傍の脳腫瘍手術. Brain Nursing 15:236-241, 1999
5. 隈部俊宏*、吉本高志: 脳機能マッピングにおける脳回、脳溝解剖学の意義. 臨床脳波:43:17-22, 2001
6. 隈部俊宏*、中里信和、刈部 博、永松謙一、岩崎真樹、吉本高志: 術前ブレインマッピング. グリオーマの診断の進歩. Clinical Neuroscience 別冊 Vol. 19, No. 3: 310-312, 2001
7. 隈部俊宏*、中里信和、吉本高志: 運動領野近傍の神経膠腫摘出術の実践的マッピング. 脳外速報 13:273-281, 2003
8. 隈部俊宏*、中里信和、井上 敬、吉本高志: Navigation surgery. 手術療法と手術支援 脳腫瘍のキーワード—最新版 Clinical Neuroscience Vol. 21, No. 5:578-579, 2003
9. 日向野修一*、隈部俊宏、高橋昭喜: 拡散強調画像の脳腫瘍への臨床応用. 臨床画像 19:1078-1087, 2003
10. 隈部俊宏*、富永悌二: 脳腫瘍病理診断に必要な臨床情報. 病理と臨床. 22: 878-883, 2004

11. 隈部俊宏*：失語. 特集「新人ナース必読・見逃せない危険な脳症状」 Brain Nursing 21:383-388, 2005
12. 齋藤竜太*、隈部俊宏、富永悌二：脳神経外科における疾患標的治療：分子標的治療と薬剤投与方法. 脳神経外科医療の translational research (1) No Shinkei Geka 34:1157-1165, 2006, IF=0.131, CI=0
13. 日向野修一*、隈部俊宏、麦倉俊司、梅津篤司、村田隆紀、高橋昭喜：グリオーマの診断における拡散強調画像の利用. 臨床放射線 52:733-740, 2007
14. 隈部俊宏*、金森政之、園田順彦、富永悌二：髄芽腫の手術. 脳外速報 18:408-417, 2008
15. 隈部俊宏*、金森政之、園田順彦、富永悌二：脳腫瘍摘出術—覚醒下脳機能マッピング／モニタリング併用— Brain Nursing 24:939-943, 2008
16. 隈部俊宏*、金森政之、永松謙一、園田順彦、富永悌二：ここまで進んでいる！脳神経外科の最新治療—覚醒下手術 Brain Nursing 25:86-89, 2009
17. 隈部俊宏*：初めての Occipital & transtentorial approach：後頭蓋窩転移性脳腫瘍の手術. 脳外速報 19: 402-409, 2009
18. 隈部俊宏*：はじめての transcallosal approach による脳室内腫瘍摘出術. 脳外速報 19:524-529, 2009
19. 隈部俊宏*、富永悌二：グリオーマの手術. Gan To Kagaku Ryoho 36:928-931, 2009
20. 村垣善浩*、隈部俊宏*：insular glioma 摘出術. 脳外速報 19:1020-1029, 2009
21. 隈部俊宏*：脳腫瘍の治療. 悪性脳腫瘍に対する治療. 保存版 まるごと理解 脳腫瘍 Brain Nursing 26:35-42, 2010
22. 隈部俊宏*、富永悌二：デジタルデータを用いた手術記録の作成とビデオ編集の意義. 脳外速報 20:270-275, 2010
23. 隈部俊宏*：頭蓋内胚細胞系腫瘍. Brain Nursing 夏季増刊（通巻 347 号）:153-164, 2010
24. 隈部俊宏*：Mitchel S. Berger. 素顔のニューロサイエンティスト. Clinical Neuroscience 別冊. 29:360, 2011
25. 隈部俊宏*、富永悌二：神経膠腫摘出における覚醒下脳機能マッピングの変遷. 脳外速報 22:429-440, 2012
26. 隈部俊宏*：こどもの脳腫瘍. やさしい医学 36. Brain 107:6-7, 2012
27. 成澤あゆみ、隈部俊宏*、齋藤竜太、園田順彦、渡辺みか、富永悌二：第3脳室 chordoid glioma の1例. 教訓的症例に学ぶシリーズ. No Shinkei Geka, 40:805-811, 2012
28. Guidelines Committee of The Japan Awake Surgery Conference: The Guidelines for Awake Craniotomy. Neurol Med Chir (Tokyo) 52:119-141, 2012